

公告 昭 34.10.22

出願 昭 32.12.25

実願 昭 32-56876

出願人 考案者

前 沢 慶 治

埼玉県北足立郡戸田町大字下戸田字
堤外3704硬質エンビ工業株式会社内

代理人 弁理士

秋 元 不 二 三

(全2頁)

開 閉 コ ッ ク

図 面 の 略 解

第1図は本案開閉コックの正面図、第2図は同上第1図A-Aにおける縦断側面図、第3図は第2図の状態からコックの閉子の部分を脱去してコック体部だけを示す第2図B-Bにおける横断平面図、第4図は本案において使用する○形パッキングリングをほぼ扁平状に撓曲して見た斜面図である。

実 用 新 案 の 説 明

本案はコックの閉子1のテーバー状周側面を摺廻自在に摺り合せて嵌込んだコック体部2の相対する通液口3,3の外方周囲を繞つてコック体部2のテーバー状内側壁面にはほぼ円環状の凹溝4,4を設けこの凹溝4,4内に○形パッキングリング5,5を密嵌しこの○形パッキングリング5,5を介してコック閉子1のテーバー状周側面とコック体部2のテーバー状内側壁面とを液密に摺接して成る構造の開閉コックである。6は閉子1の手働開閉用把手で閉子1の突出軸子7に取着けたものである。

本案のコック体部2及び閉子1の材質は金属プラスチック等任意であるが耐蝕性、耐化学薬剤性、耐酸耐アルカリ性を要するような場合にはこれに適應する塩化ビニル、ポリエステルその他のプラスチック製とするのがよい。また○形パッキングリング5もゴムのような弾性に富むもので可撓性とするものであるが耐蝕性、耐酸耐アルカリ性を必要とする場合には合成ゴムその他前記と同様な耐蝕性プラスチック製とするものである。ただしいずれの場合でも○形パッキングリング5は弾性を帯有した可撓材料にて作製する。

従来の開閉コックは一般に閉子のテーバー形周側面をコック本体部のテーバー状内側壁面に良く摺り合せ状に摺廻自在に密嵌させるのが必要であるが閉子の嵌合が固くて軽く廻らない場合には働

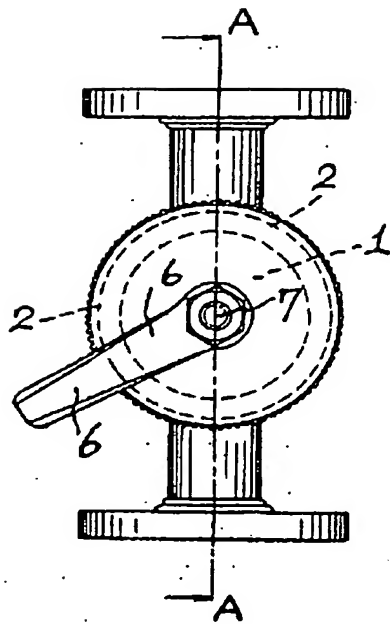
作が容易でないばかりでなく摺廻を反覆すれば閉子のテーバー形周側面の摩耗が多くなり摩耗に連れ液体の漏洩を来し開閉作用を不十分とする欠点があり、また両者の摺接面を軟質の材料で作製すれば摺接面が益々密着して一層動かし難くなりコックの働作上の不便が著しい欠点のあるのを免がれない。

本案は上記のような従来の欠点を簡便な構造によつて良く防止することができるようにしたものであつて、コック体部2の通液口3,3の外方周囲の曲面を利用しその曲面部分にほぼ円環状の凹溝4を設け、この凹溝4内に○形パッキングリング5を密嵌しこのパッキングリング5の軟質可撓性及び帯弾性を有効に利用し、このパッキングリング5が閉子1の周側面とコック本体部2の凹溝面に良好に馴染む性質を活用し閉子1の周側面とコック本体部2の内側壁面との摺り合せを厳密に完全としなくても一応の摺り合せ状とするだけで両者間を良好な液密状態に保つことができ、而も閉子1は比較的輕易に廻動することができるから摺接面の摩擦を減じ摺接部面の摩耗を防ぎコックの耐用期間を延長し充分耐久的とすることができる効果があり、且つ工作簡便であるから製作原価を低下させることができる。

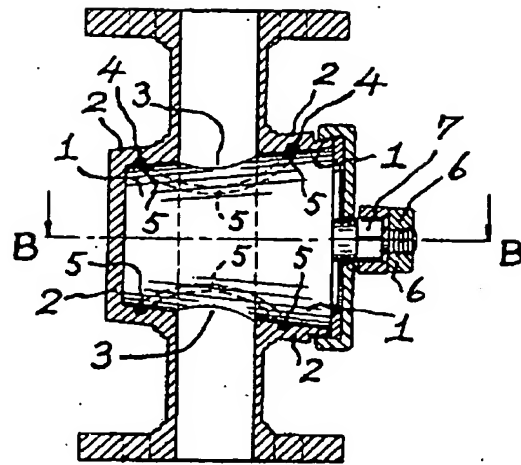
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように閉子1のテーバー状周側面を摺廻自在に摺り合せて嵌込んだコック体部2の通液口3の外方周囲を繞つてコック体部2のテーバー状内側壁面にはほぼ円環状の凹溝4を設け、この凹溝4内に軟質帯弾性の○形パッキングリング5を密嵌し、この○形パッキングリング5を介して閉子1のテーバー状周側面とコック体部2のテーバー状内側壁面とを液密に摺接して成る開閉コックの構造。

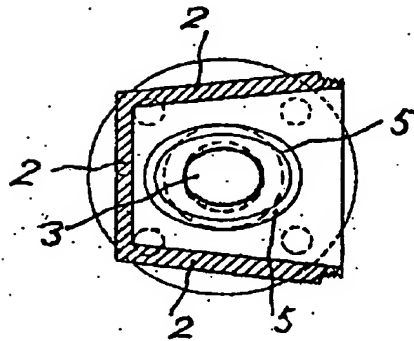
第1図



第2図



第3図



第4図

